

第107号

令和8年3月1日発行

# 新潟教育会報

公益財団法人新潟教育会

(新潟教育会館内)

〒951-8104 新潟市中央区西大畑町590番地3号

TEL・FAX: 025-222-2971 E-mail: jimukyouikukai.jp



新潟教育会  
ホームページ



## 第26回教美展(新潟教育会美術展)にて

ビエンナーレ

公益財団法人新潟教育会 理事 森 正 司

9月24日午後、第26回教美展(新潟教育会美術展)を訪れた。

入ってすぐ左手に、故富田徹先生の「境内静寂」と、故小黒隆彦先生の「早春の温泉街」が掲げられている。いつも拝見していた懐かしいお名前、そしていつ観ても飽きることのない迫力のある大作である。

そこから10歩ほど進んだ所。「あった、良かった、今回も出品して下さった。」と思わず声が出る作品が展示されていた。「潟風眺望」、眞島幸平さんの作品だ。今ではこの美術展になくてはならない秀逸な一品だと思う。

その理由は二つある。一つ目は作品そのものが素晴らしい。湖畔に生える樹々の間から遠くの山々が望め、その樹々の間から吹いてくる潟風。湖面を渡る涼風が爽やかに頬を撫でる。潟風眺望、どこの潟だろうか。上堰潟か、佐潟か。この眺望と潟の広がりには鳥屋野潟に違いないと、つい見入ってしまう。

理由の二つ目は、眞島さんが新潟市役所職員のOBだということである。西区の区長さんを勤められたという。45歳で絵を描き始め、これまで芸展に入選されたり、県展で奨励賞を受賞されたりしたとお聞きしている。

その方が、一年おきの開催となった教美展(新潟教育会美術展)に出品して下さっている。しかも、第25回教美展の「越後種月寺」に引き続いての出品である。まさに「本美術展の主旨に賛同いただいている県民の皆様からの出品」だということになる。

同じく隔年開催となった「夏季大学講座」への一般市民の「参加」とは同一には語れない。この作品が展示されていること自体、私たちの新潟教育会が「公益財団法人」たる証だと、私は受け止めている。

もう一点、その製作方法や製作過程を考えると、どうしても見入ってしまう秀逸な作品があった。佐久間節子先生の「琵琶を弾く天女」である。裂き織りの技法を駆使した工芸作品であるとのこと。

「裂き織り」というと、佐渡への修学旅行で見聞しただけだが、古い布を裂いて糸代わりにし、機に架けて新たな布に織り上げるもの。古い布の模様が、新たな布の斬新な柄となり、また一味違う風合いを生む。

この「琵琶を弾く天女」では、裂いた布のどこにくびりを付け、どのようにして藍に染めたのか。そのやり方一つで、表せる模様が決まってしまう。また、どのようにして機に通し、どんなふうに織り上げたのか。

機織りでは、織っている時は表と裏が逆になり、裏側に表したい模様が織り上げられるという。一体、どこを見ながら、どのような工夫をして織ったのだろうか。作品の前に立ち、思い巡らしていると切りがない。

もとより、新潟教育会の各種事業や研修会は、新潟教育会だからこそ開催・実施できるものばかりである。それを支えるスタッフも素晴らしい。そのお陰で今日の作品展があり、私の拙い思索があるのだと改めて感謝した。

# 令和7年度特別支援教育 助成校だより

助成校

- 上越市立名立中学校
- 南魚沼市立六日町中学校
- 新潟県立長岡明德高等学校
- 胎内市立中条中学校
- 新潟市立竹尾小学校
- 新潟市立明鏡高等学校

## 生徒一人一人の well-being を目指した 教育活動の展開～特別支援教育を基盤に～

上越市立名立中学校

校長 吉澤 祐一

当校は、自閉症・情緒障害学級と肢体不自由学級が各1学級です。各学級生徒の将来の自立を目指して、行政、医療、福祉等の関係機関と細やかに連携を図り、自立活動の時間を中心に様々な生活経験を積み重ねつつ、自己肯定感を高める活動を行っています。

学校全体でも、外部人材を活用しながら、特別支援教育の視点に立って教育活動を展開しています。例えば、JAの指導によるサツマイモの栽培・販売、車椅子選手を講師に招いてのパラスポーツの体験活動などです。小規模校の良さを生かして、全校生徒が実体験できるよう工夫しています。さらに、全校生徒対象に非認知能力に焦点を当てたアセスメントを行い、その結果を教科指導と生徒指導の充実につなげています。

このように、特別支援教育を基盤として、生徒の実態に応じた指導・支援及び多様な人々との関わりを通して、生徒一人一人の well-being の実現を目指しています。



パラスポーツの出前講座の様子

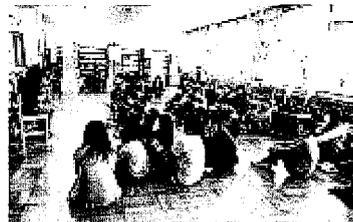
## 「つながり」を大切にした 支援・指導の充実

南魚沼市立六日町中学校

校長 小宮山 仁

当校は、特別支援学級2学級、通級指導教室（発達）が設置されています。経験豊富な通級指導担当者は校内のコーディネーターも務め、研修の運営や、通常学級に在籍する生徒も含めた個別の支援に関する助言・指導を行っています。一方、特別支援学級の運営や支援員の統括を含む日常的なコーディネートには特別支援学級の担任1名を充て、いわば「ダブル・コーディネーター」体制を敷いています。このことが、関係機関や保護者との緊密な連携の一助となっています。

また、当校が事務局である中学校区の教職員組織（小学校2校、中学校1校、特別支援学校1校）においても、特別支援教育に関する研修、連携・交流事業を行っています。「小中特別支援学級・特別支援学校交流会」もその一つで、レクリエーション等の活動を通じて児童生徒が互いに理解を深めるとともに、教職員にとっても支援のあり方やスキルを学ぶ大切な機会となっています。



中学校区で行う交流会の様子

## 自立した『大人』への成長 ～「チーム明德」で育む～

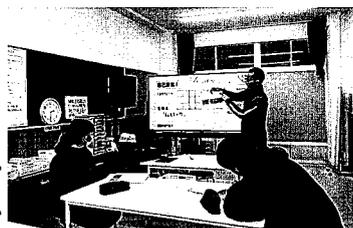
新潟県立長岡明德高等学校

校長 長浜 力也

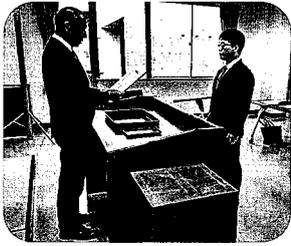
当校では、自立した『大人』への成長をグランドデザインに掲げ、スクールミッション「柔軟な学びを実現し、社会参加に必要な力を培い、地域を支える人材を育成する学校」を実現すべく、「チーム明德」として教職員一丸となって日々の教育活動に取り組んでいます。また、スクール・ポリシー達成のための方策として、6つの柱からなる「明德スタンダード」を定め、

その一つである「生徒の困り感に対応した特別支援教育」にも力を入れています。2年次から実施している通級指導（自立活動講座）

では、コミュニケーションスキルの向上を図る「自己探究」と職業について自己理解を深める「職業研究」を開講しています。今後も、多様な生徒が学ぶ定時制高校の実態に即した特別支援教育を実践し、個々の生徒の成長や進路実現を支援していきます。



情報を正しく聞き取るトレーニング



「特別支援教育助成」は、公益財団法人新潟教育会が設立以来毎年行っている重要な事業で、これまでに助成した学校は、のべ400校以上になりました。

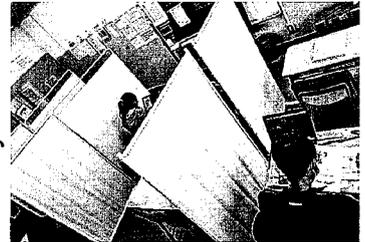
近年は、切れ目のない支援の必要性から、積極的に一人一人のニーズに合わせた取組を進めるよう各学校において、研究と実践に取り組んでいる様子が見られます。今年度は、初めて高等学校2校が対象校に選ばれました。助成校6校の取組を紹介します。

## 多様な背景をもつ生徒への支援を通して 胎内市立中条中学校 学校の基礎的環境整備を高くする

校長 森谷 優子

当校では、すべての生徒が社会で自立できるようになることを念頭に置き、アセスメントと環境整備に力を入れた教育活動を推進しています。市からの協力もあり、新生生は4月にNINO(教研式認知能力検査)で個々の認知能力を、全校生徒へQ-Uを年2回実施し学級への適応状況を測ります。さらに個別の検査が必要と判断された場合にはWISCやK-ABC II 学習習得度検査を実施し、集団と個人で客観的な生徒理解ができるようにしています。

こうした結果を踏まえて、通常学級ではどのような支援が必要なのか、よれんすルーム(校内支援センター)や発達障害通級指導教室、特別支援学級のどこが生徒に合っているのか、本人、保護者と相談の上でそれぞれの教室を体験してもらい、一番合った学習環境を提供できるように努めています。



よれんすルームで学習する生徒

## 困り感を抱える児童や特別支援学級に 在籍する児童の健やかな成長に向けて

新潟市立竹尾小学校

校長 本間 直樹

当校には、知的障がい学級が2学級、自閉症・情緒障がい学級が2学級あります。また、発達障がい通級指導教室が2教室あります。通常学級に在籍する困り感を抱える児童も多く、必要に応じて素早く校内委員会を開催し、一人一人に応じた支援のあり方を検討したり、場合によっては専門機関や医療機関等との連携の仕方について話し合ったりしています。

特別支援学級では、「近くのコンビニに出かけての買い物練習」、「流しそうめん」、「自分たちで育てて収穫したサツマイモを使ってのスイートポテトパーティー」「クリスマス会」など児童の興味関心に沿った生活単元学習により、児童はいきいきと学習しています。また、個々の児童の自立を目指した自立活動により、児童はのびのびと活動しています。

今後も特別支援教育コーディネーターや特別支援教育学年主任のリーダーシップのもと、困り感を抱える児童や特別支援学級に在籍する児童の健やかな成長が図れるよう校内体制を整えようと思います。



流しそうめんの様子

## 花(夢・希望) 拓く7色目は自分色

新潟市立明鏡高等学校

校長 小林 正樹

明鏡高校のスクールミッションは、「生徒の個性や能力、夢や希望に応じた多様な学びの実現により、一人一人の可能性を拓く学校」です。当校では、不登校経験のある生徒や特別な支援を必要とする生徒、転入生、外国語を母国語とする生徒など、多様な背景をもつ生徒が共に学んでいます。こうした多様性を強みに、「学校」「地域」「関係機関」が連携して支える体制を整えています。通級指導教室では自立活動として、①自己理解と目標設定②人間関係・コミュニケーション③進学・就職に必要な力の育成を柱に支援し、「自信がついた」「学校が楽しい」といった声が聞かれます。さらに若者支援の専門機関と連携した校内相談の機会も設け、安心して学び続けられる環境づくりを進めています。ワクワクする学びの中で、生徒一人一人が自分色を見つけ、個性豊かな7色の花を拓くことができるよう、寄り添いながら支え導く学校を目指しています。



通級教室：夏季講座交流会

# 第26回 教美展 開催

ビエンナーレ

9月23日(火・祝)～28日(日)の会期で、「第26回 教美展(新潟教育会美術展)」を新潟県民会館ギャラリーAに於いて開催しました。「教美展」は、今年度より、ビエンナーレ(イタリア語で2年に1度を意味する)の形で開催することとなりました。

日本画、洋画、版画、彫塑、工芸、書道、写真の7部門に95点の出品があり、6日間の会期中を通して約600名の方から鑑賞していただきました。また、教美展にご功績の大きい故 富田 徹先生、故 小黒 隆彦先生の遺作も展示させていただきました。作品を鑑賞しながら、お二人を偲んで思い出を語り合う方も多くいらっしゃいました。

最終日の作品鑑賞会では、出品者が語る作品に込めた思いを聞くこともでき、教美展を通して、来場者と出品者が鑑賞と交流を深める場となりました。

出品いただいた皆様、来場いただいた皆様、誠にありがとうございました。



第27回「教美展」は、令和9年度に開催を予定しています。

ビエンナーレ

※新たに出品を希望される方は、新潟教育会事務局(025-222-2971)までご連絡ください。出品料は無料です。

## 教育資料室の資料整備状況について

資料選定委員会では、これまで資料室の蔵書の整理とあわせて、蔵書のデータベース化を進めてきました。

膨大な資料のため時間を要していますが、大学生の皆さんの協力を得て、現在は約2,600冊の入力を完了しました。一日も早くご活用いただけるよう今後も着実に作業を進めていきます。

また、蔵書充実のために「行政刊行図書」とともに「学校の周年事業誌」の収集を行っています。特に今年度は、創立150周年を迎えた学校も多いとお聞きしています。資料をご寄付いただける場合には、当会事務局までご連絡をお願いいたします。



## お知らせ

- ◎今年度周年事業を迎えた「無限の会」「世紀の会」「陶冶の会」「総の会」の皆様から、たくさんのご寄付をいただきました。ありがとうございました。有効に活用させていただきます。
- ◎利用者のニーズに合わせた使いやすい「新潟教育会館」を目指し、施設・設備を計画的にリニューアルしています。今年度は、各部屋の椅子の入替やトイレ・洗面所回りの改修を行いました。使用料は無料です。皆様のご利用をお待ちしています。
- ◎来年度、「**夏季大学講座**」を開催します。

- ・ 期日：令和8年7月18日(土) 13:30～
- ・ 会場：新潟県民会館 小ホール
- ・ 講師：開志国際高等学校  
バスケットボール部総監督  
富樫 英樹 様
- ・ 演題：「無限なる挑戦」